

令和6年度

地域活動担い手育成講座

「いいな」を形にするまちづくり

～多様な世代の参加に向けて～

2024/12/15

特定非営利活動法人まちサポ栗石



地域づくりの必要性と目指す地域像

地域を取り巻く現状

- 01 人口減少
- 02 地域の拠点の減少（商店など）
- 03 地域コミュニティの希薄化
- 04 担い手不足

協働のまちづくりと地域力の向上

- ①地域力 = 地域の課題解決力
- ②どのようにして、地域力を高めるか



地域住民が課題解決の実践を
積み重ねるしかない



地域づくりの必要性と目指す地域像

目的

人口減少が進む中、地域コミュニティやまちづくりを支える
様々な団体の枠を超え、
地域の課題解決について、住民が主体となって地域づくりを
おこない、**地域で支えあう力を強化する。**

地域の現状 ～盛岡市～



I 調査の概要

1 趣旨

令和8年度から12年度を計画期間とする「(仮称)第2次盛岡市地域づくり協働推進計画」の策定に向け、より多くの町内会・自治会の意見を内容に反映させるため、市内の全町内会・自治会(383団体)に対し、地域活動の実施状況や運営上の課題等について、アンケート調査を実施した。

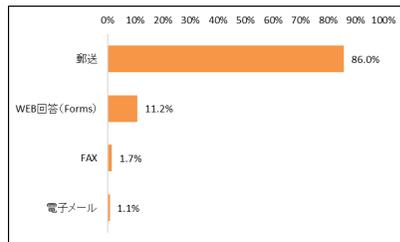
2 調査の概要

- (1) 実施方法 アンケート調査票を対象者に郵送し、回答を依頼。
- (2) 調査対象者 盛岡市内の町内会・自治会の長(383団体)
- (3) 回答方法 郵送(返信用封筒による)、FAX、電子メール、WEB回答(Microsoft Forms)
- (4) 調査時期 令和6年7月19日(金)～8月9日(金)
- (5) 回答集約 令和6年8月9日(金)～令和6年9月11日(水)

3 調査の回収率

- (1) 対象者数 383人(盛岡市内の町内会・自治会の長等)
- (2) 有効回収数 286人
- (3) 有効回収率 74.7%

【回答媒体の内訳】



回収率は全体で74.7%となった。

回答媒体の内訳としては、郵送が246人(86%)、WEB回答が32人(11%)、FAXが5人(2%)、電子メールが3人(1%)であった。

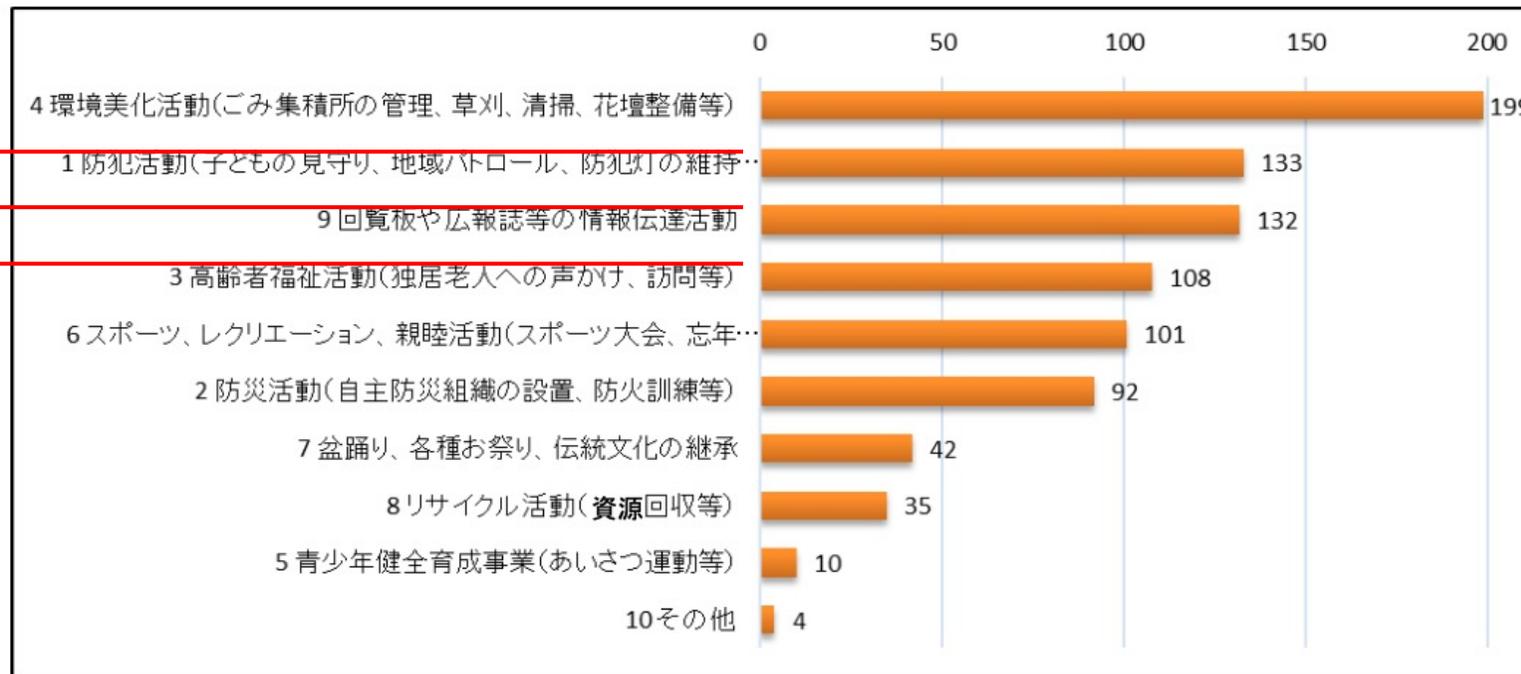
令和6年度町内会・自治会アンケートの結果

- ・実施期間 / 令和6年7月19日～8月9日
- ・対象 / 盛岡市内の町内会・自治会の長(383団体)
- ・有効回収数: / 286人(383人中)

【有効回収率 74.4%】

【問1】 町内会・自治会が行う活動の中で、最低限欠かす ことができないと考える活動は何ですか。 (当てはまるものを3つ選択)

【回答結果】



POINT

幅広い活動

+

必要最低限

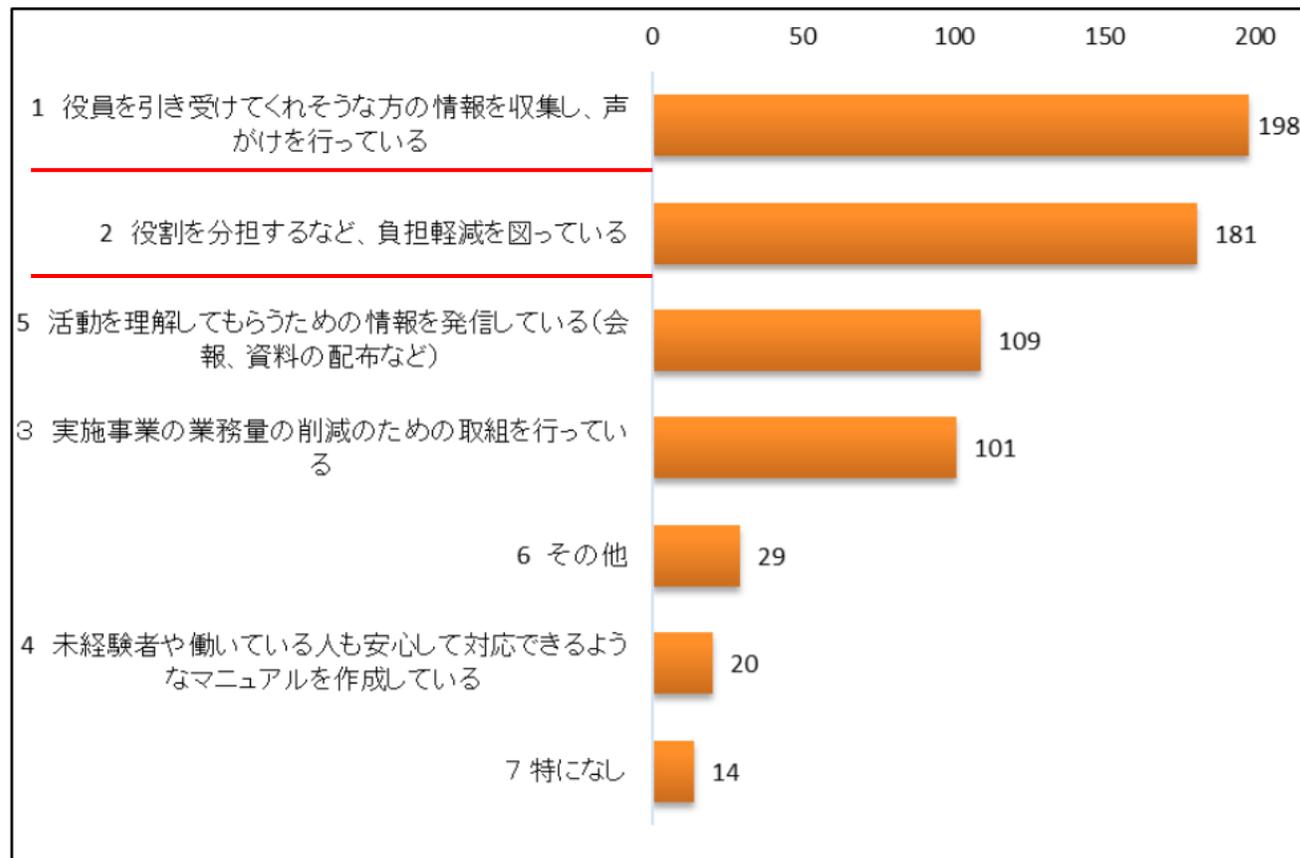


地域の交流を産む活動

【問2】 町内会・自治会で役員等の担い手確保のために行っている取組がありますか。

(当てはまるものを全て選択)

【回答結果】



地域の交流を産む活動



交流の中で知り合った人

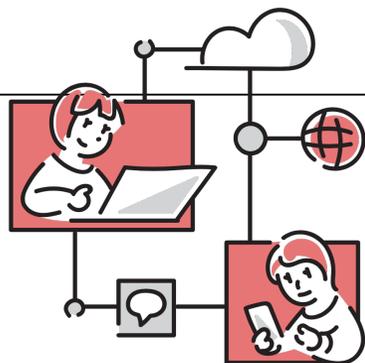
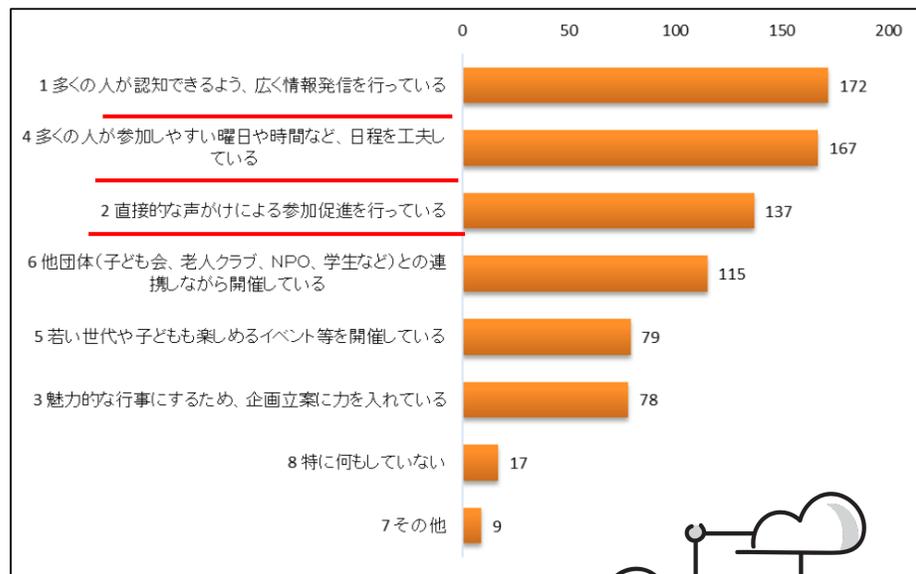
+

負担を減らしている

【問3】 町内会・自治会の活動（行事など）への参加促進のため取り組んでいることがありますか。

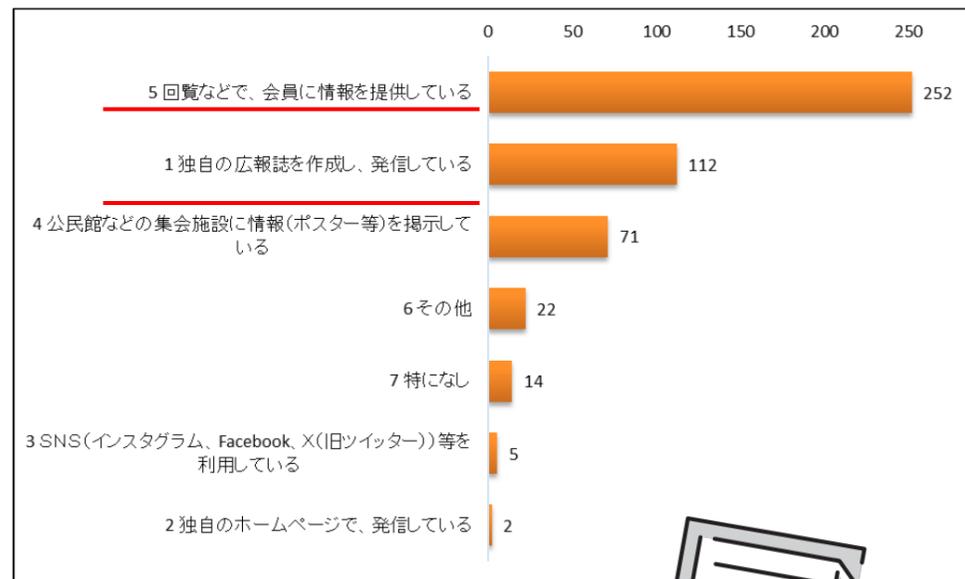
（当てはまるものを全て選択）

【回答結果】



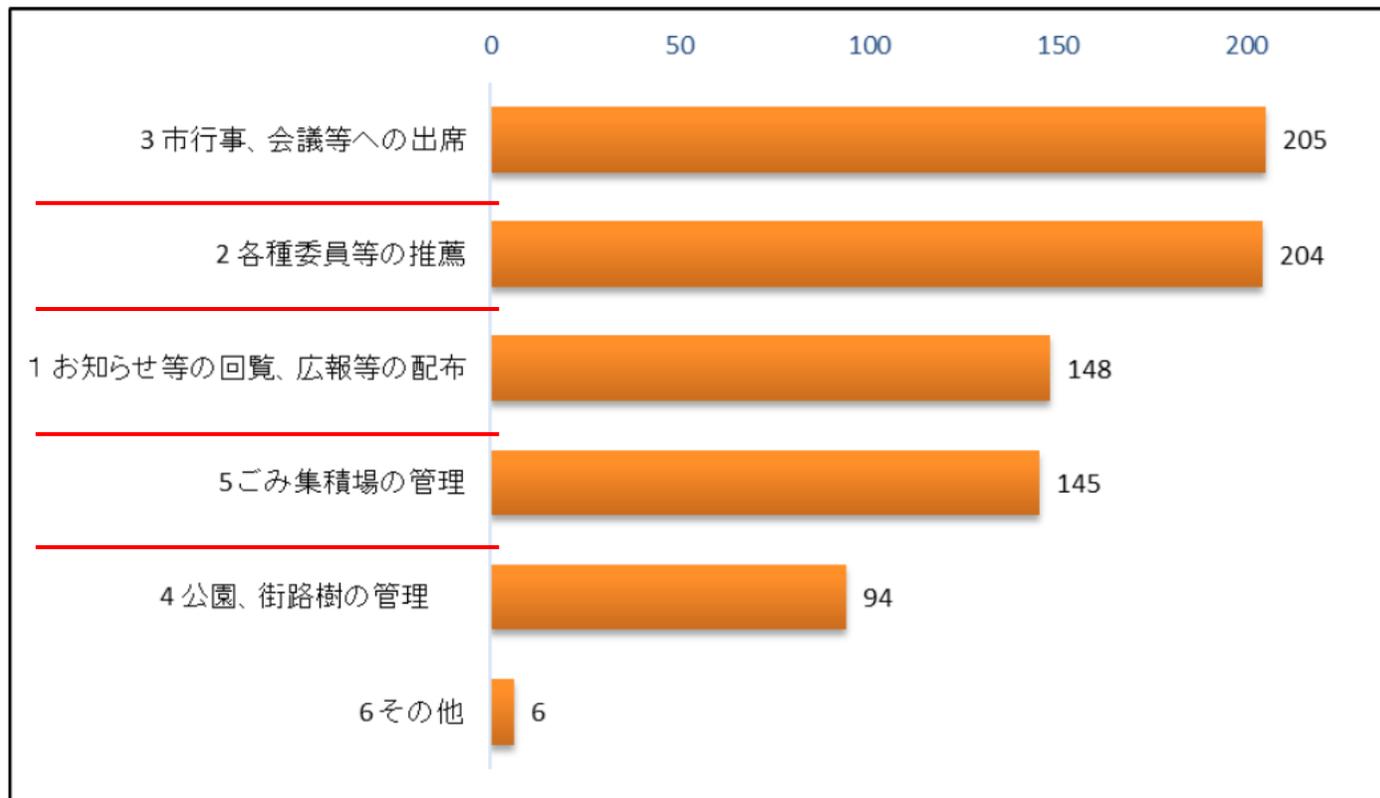
【問4】 町内会・自治会でやっている活動の情報を伝達する手段として活用しているものがありますか。

【回答結果】



【問5】 市が町内会・自治会に協力をお願いしている業務の中で、特に負担が大きいと感じるものは何ですか。（当てはまるものを3つ選択）

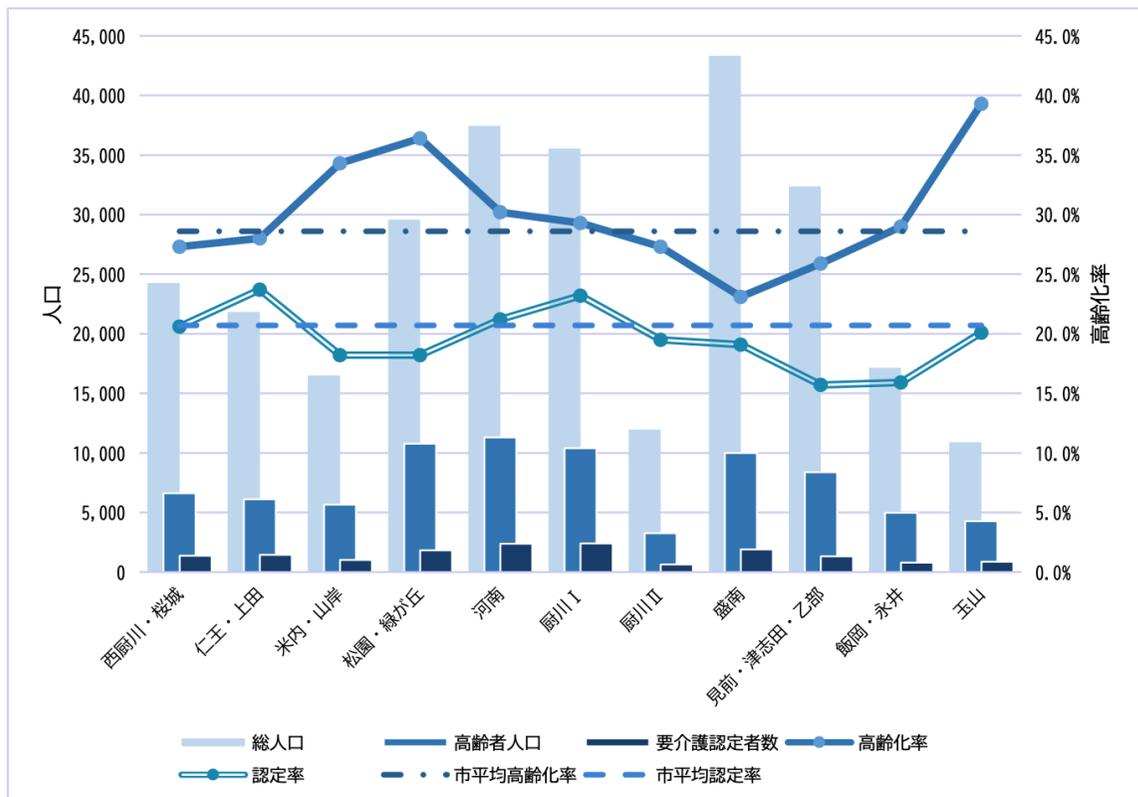
【回答結果】



最低限欠かすことができないと考える活動も負担になってきている

地域の現状 ～盛岡市～

盛岡市の人口概要 (令和5年9月末時点)



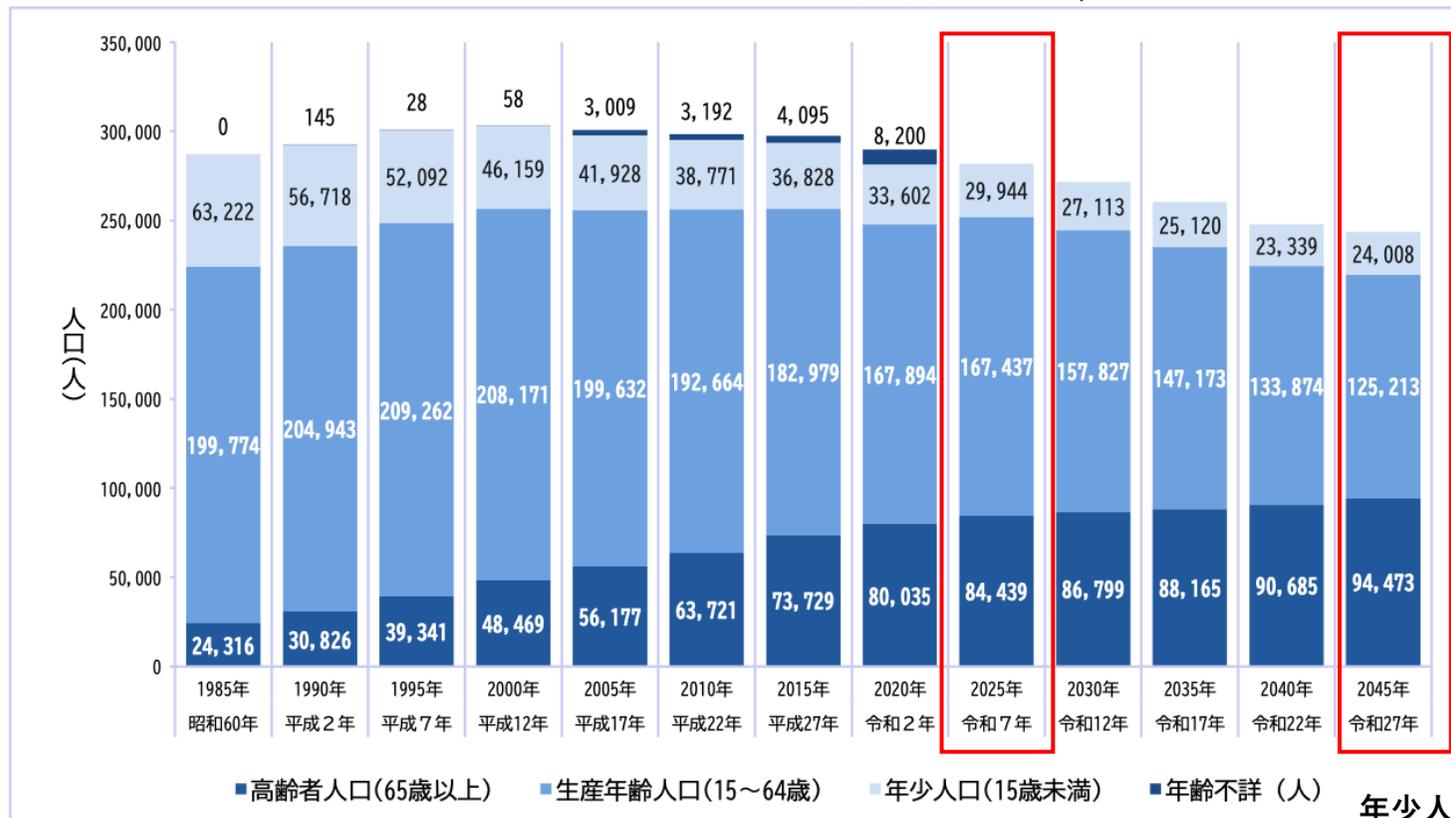
圏域名	総人口	高齢者人口	高齢化率 (高齢者人口÷ 総人口)	要介護 認定者数	認定率 (要介護認定者÷ 高齢者人口)
西厨川・桜城	24,253人	6,625人	27.3%	1,362人	20.6%
仁王・上田	21,829人	6,105人	28.0%	1,446人	23.7%
米内・山岸	16,491人	5,650人	34.3%	1,031人	18.2%
松園・緑が丘	29,576人	10,768人	36.4%	1,817人	16.9%
河南	37,448人	11,294人	30.2%	2,390人	21.2%
厨川I	35,553人	10,403人	29.3%	2,416人	23.2%
厨川II	11,962人	3,270人	27.3%	638人	19.5%
盛南	43,327人	9,993人	23.1%	1,910人	19.1%
見前・津志田・乙部	32,376人	8,380人	25.9%	1,316人	15.7%
飯岡・永井	17,149人	4,979人	29.0%	790人	15.9%
玉山	10,887人	4,275人	39.3%	859人	20.1%
市全体	280,851人	81,742人	28.6%	16,958人	20.7%

※住民基本台帳に基づく状況(令和5年9月末時点)
市全体の認定者数は、市外在住者を含む。

令和6年度から8年度まで
盛岡市高齢者福祉計画
第9期介護保険事業計画 計画書から

地域の現状 ～盛岡市～

年少人口 10,6%
高齢者人口 30,0%



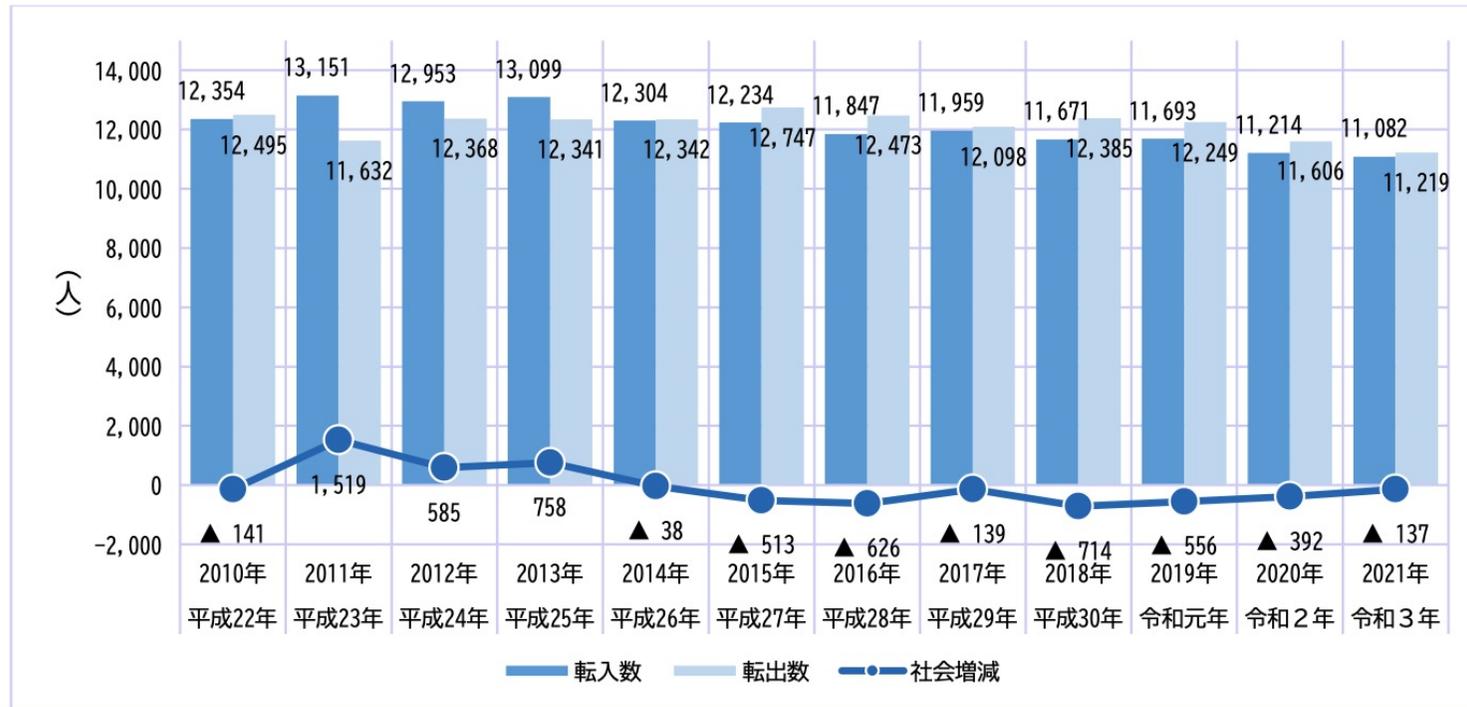
年少人口 10,2%
高齢者人口 36,5%

資料：平成12年～令和2年は国勢調査結果
令和7年～令和22年の推計人口は盛岡市人口ビジョン（令和5年3月更新版）
令和27年の推計人口は国立社会保障・人口問題研究所

地域の現状 ～盛岡市～

社会動態

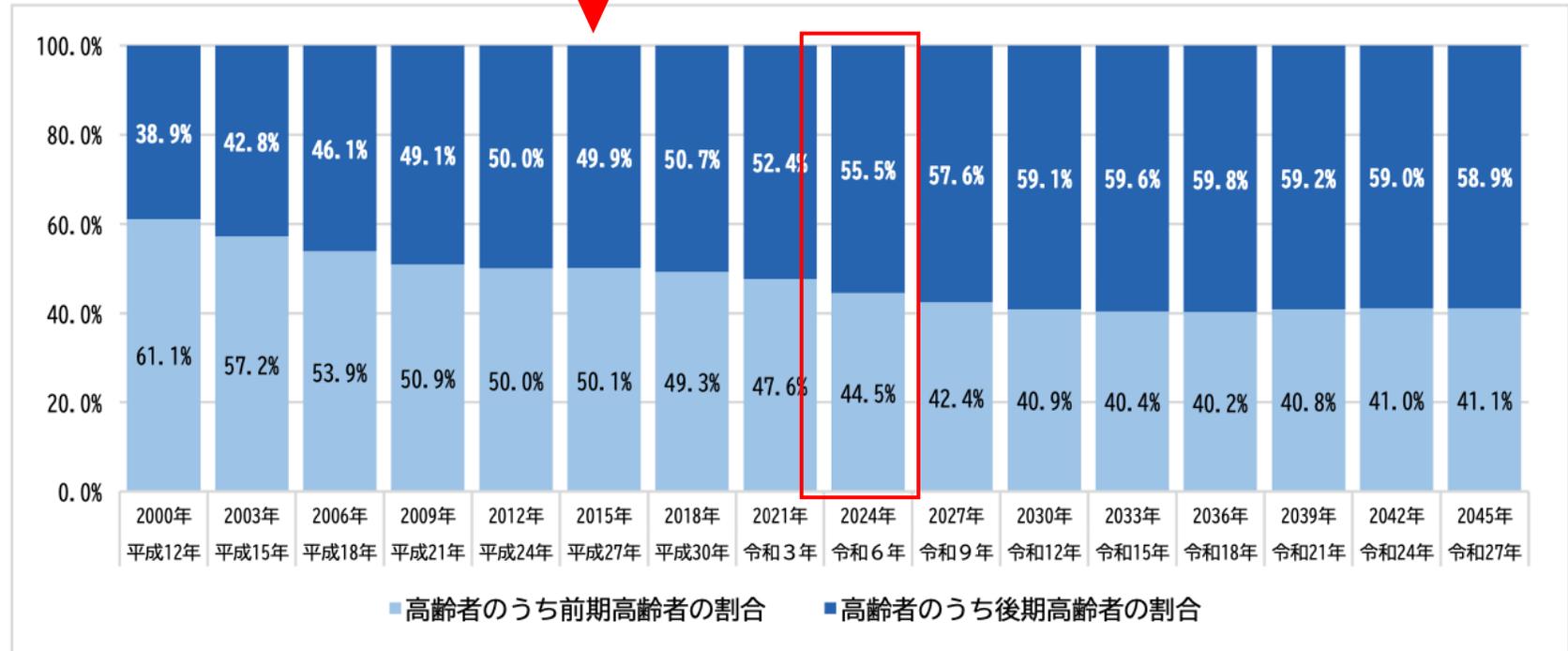
本市の転出、転入による社会動態をみると、平成23年（2011年）から平成25年（2013年）は、東日本大震災により被災地からの転入が増えたこともあり、社会増減はプラスで推移していましたが、平成26年以降は転出超過となり、令和3年は137人減少しています。



資料：盛岡市統計書（令和3年（2021年）版）

地域の現状 ～盛岡市～

(地域活動の担い手問題)



資料：平成12年～平成27年は国勢調査結果
令和2年～令和7年の推計人口は盛岡市総合計画
令和12年～令和22年の推計人口は国立社会保障・人口問題研究所

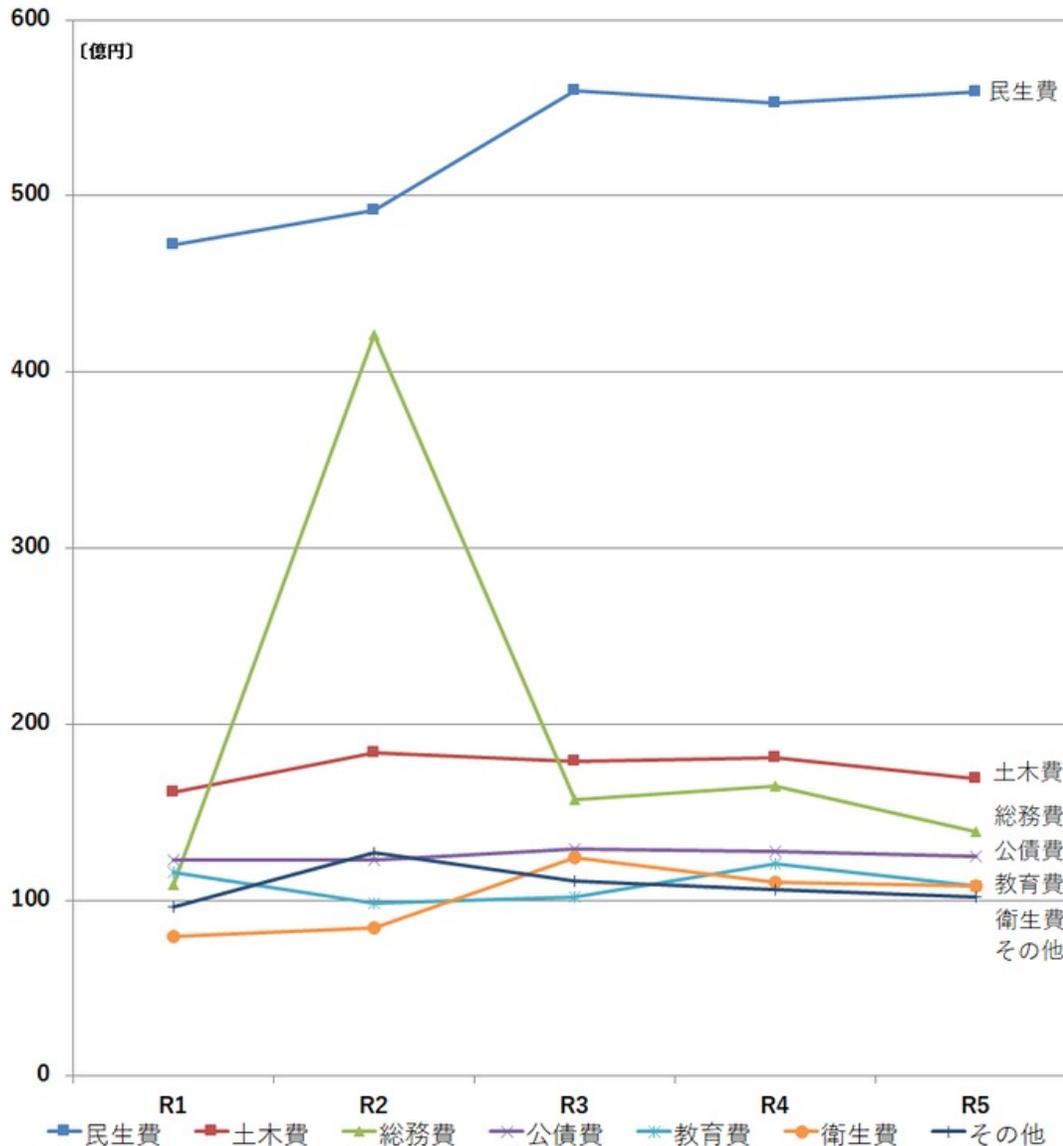
地域の現状 ～盛岡市～

高齢者の世帯構成

	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年		令和 5 年	
	世帯数	構成比	世帯数	構成比								
一般世帯	119,040		118,989		124,839		129,420		130,755		138,752	
高齢者のいる世帯	32,472	27.3%	36,931	31.0%	41,220	33.0%	47,135	36.4%	50,451	38.6%	-	-
ひとり暮らし世帯	6,109	18.8%	7,609	20.6%	9,479	23.0%	12,490	26.5%	14,458	28.7%	17,238	-
夫婦世帯	7,929	24.4%	9,292	25.2%	10,484	25.4%	12,431	26.4%	14,211	28.2%	13,798	-
その他世帯	18,434	56.8%	20,030	54.2%	21,257	51.6%	22,214	47.1%	21,782	43.2%	-	-

▲ 5年 ▲

地域の現状 ～盛岡市～



社会保障費
(民生費)は
増えていく

出典/ 盛岡市HP
<https://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/zaisei/1010723/1010742.html>

地域の現状 ～盛岡市～

令和1年度から令和5年度の科目別歳出の一覧表

科目	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
民生費	472億4662万 1824円	492億8889万 6846円	560億3797万 9466円	553億5614万 9377円	559億9234万 7291円
土木費	161億7736万 4615円	184億7489万 5088円	179億5972万 347円	181億9059万 4601円	169億1316万 1835円
総務費	109億1206万 4897円	421億5152万 7327円	157億9101万 7573円	165億5652万 1151円	139億0512万 0070円
公債費	123億6408万 9117円	123億6702万 6921円	129億2152万 5971円	128億5750万 6723円	125億6976万 3921円
衛生費	79億8286万 7532円	84億3916万 8240円	124億8767万 2671円	121億2242万 410円	108億0571万 9832円
教育費	116億6612万 2484円	98億2615万 1963円	102億7354万 7224円	110億1794万 709円	108億4254万 5560円
その他	96億6225万 8610円	127億1466万 1288円	111億8504万 4526円	106億13万 2894円	102億6万8261 円
計	1160億1138万 9079円	1532億6232万 7673円	1366億5650万 7778円	1367億126万 5865円	1312億2872万 6770円

出典/ 盛岡市HP
<https://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/zaisei/1010723/1010742.html>

地域の現状



生産
人口が減る

税収が減る



高齢化が
進む

社会保障費は
増える



施設の老朽化
が進む

維持管理費は
増える

盛岡市は、お金がなくなる

「行政頼み」

今まで通りが通用しなくなる

地域を取り巻く現状

- 01 人口減少
- 02 地域の拠点の減少（商店など）
- 03 地域コミュニティの希薄化
- 04 担い手不足**

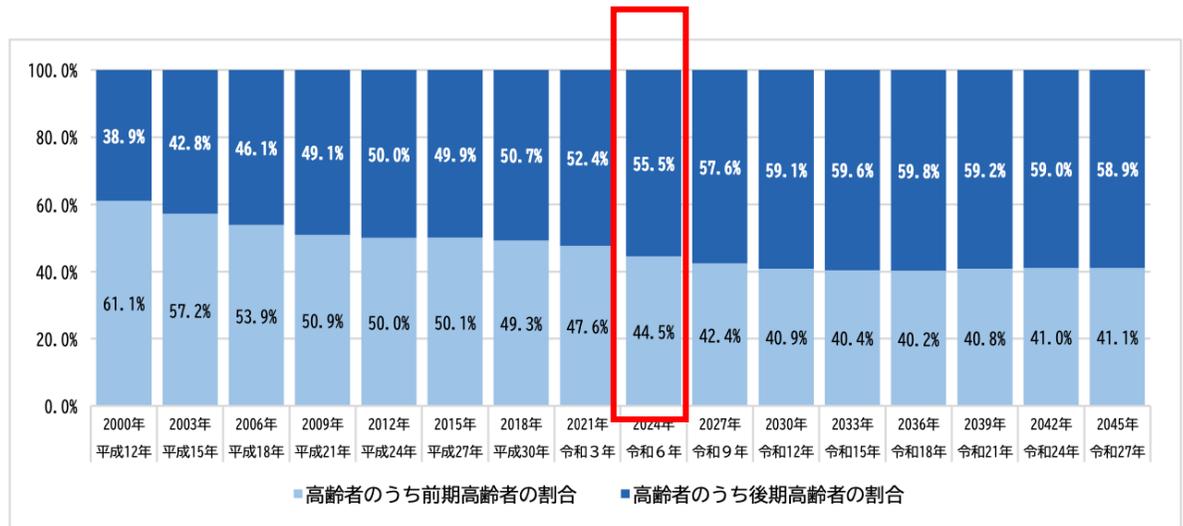
行政を取り巻く現状

- 01 財政規模の縮小
- 02 職員不足**
- 03 ニーズの多様化**
- 04 インフラ寿命の一斉到来

活動の輪を広げる必要性

高齢者の世帯構成

	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年		令和 5 年	
	世帯数	構成比	世帯数	構成比								
一般世帯	119,040		118,989		124,839		129,420		130,755		138,752	
高齢者のいる世帯	32,472	27.3%	36,931	31.0%	41,220	33.0%	47,135	36.4%	50,451	38.6%	-	-
ひとり暮らし世帯	6,109	18.8%	7,609	20.6%	9,479	23.0%	12,490	26.5%	14,458	28.7%	17,238	
夫婦世帯	7,929	24.4%	9,292	25.2%	10,484	25.4%	12,431	26.4%	14,211	28.2%	13,798	
その他世帯	18,434	56.8%	20,030	54.2%	21,257	51.6%	22,214	47.1%	21,782	43.2%	-	-



資料：平成 12 年～平成 27 年は国勢調査結果
 令和 2 年～令和 7 年の推計人口は盛岡市総合計画
 令和 12 年～令和 22 年の推計人口は国立社会保障・人口問題研究所

これまでとこれから

これまで



家族



家族で支えてきていたが
これからは、地域で支える必要がある

これから



地域



これまでと

これからは

違う

活動の輪を広げる**必要性**



地域活動に期待

将来的には地域の担い手も減少



今のうちから育成

多種・多様な人材
を巻き込んでいく
必要がある

資 料

1	市民の地域活動への意識調査等	2
2	地域づくり組織	5
3	町内会・自治会	9



市民の地域活動への意識等(市民アンケートの結果)

- ・ 実施期間 令和元年8月14日～8月27日
- ・ 対象 満18歳以上の市民(対象者数3,000人)
- ・ 有効回収数: 1,196人(有効回収率39.9%)

(1) 主に住民によって組織された団体が行う地域活動に、どのくらいの頻度で参加していますか。

項目	回答数	割合 (%)
1 頻繁に参加している (月1以上)	92	7.7
2 定期的に参加している (2~3ヶ月に1回程度)	177	14.8
3 たまに参加している (年に1・2回程度)	278	23.2
4 現在は参加していないが、過去には参加したことがある	308	25.8
5 参加したことがない	322	26.9
6 無回答	19	1.6
合計	1,196	100.0

(2) ((1)で1, 2, 3回答者) 地域活動に参加する理由は何ですか。(複数回答可)

項目	回答数	割合 (%)
住民同士の交流ができる	284	51.9
地域や住民の役に立つことができる	233	42.6
地域の様子を知ることができる	215	39.3
役員である	117	21.4
子どもが参加するから	95	17.4
地域活動に興味・関心がある	85	15.5
災害などの緊急時に備える	74	13.5
誰でも参加しやすい	43	7.9
知人に誘われる	30	5.5
時間に余裕がある	29	5.3
その他	29	5.3
無回答	6	1.1

(3) ((1)で4・5回答者) 地域活動に消極的な理由は何ですか。(複数回答可)

項目	回答数	割合 (%)
日程が合わない	252	40
忙しい	225	35.7
一人では参加しづらい	169	26.8
人間関係が煩わしい	142	22.5
手伝いや役員などを頼まれそう	123	19.5
参加者の世代が自分と合わない	98	15.6
その他	94	14.9
現在の地域に長く住む予定がない	72	11.4
地域活動に興味・関心がない	70	11.1
拘束時間が長い	62	9.8
案内(チラシや回覧板)がない	55	8.7
活動する必要性を感じない	55	8.7
無回答	18	2.9

1990年半ば～2010年代生まれの世代 (14歳～34歳)



若年層の価値観・ライフスタイルに関する調査 「Z世代レポート2018」 発表

「Z世代」は、
中学生時代にソーシャルメディアを使いはじめ、高校生になると同時にスマートフォンを所有

活動の輪を広げる 方法案

若い人（次世代担い手は）
楽しみながら
地域の役に立つ
地域と関わる

得られるもの

目的

担い手育成

地域活動

- ・ 自治の維持
- ・ 環境整備
- ・ 見守り、防犯
- ・ 支え合い、お互い様
- ・ 地域の人々とコミュニケーションを取る機会になる
- ・ 地域のネットワークを構築できる
- ・ 地域社会の一員として認められる

くらし続けることができる
まち

若者・次世代の巻き込み

仲間を増やす

(1) 主に住民によって組織された団体が行う地域活動に、どのくらいの頻度で参加していますか。

項目	回答数	割合 (%)
1 頻繁に参加している (月1以上)	92	7.7
2 定期的に参加している (2~3ヶ月に1回程度)	177	14.8
3 たまに参加している (年に1・2回程度)	278	23.2
4 現在は参加していないが、過去には参加したことがある	308	25.8
5 参加したことがない	322	26.9
6 無回答	19	1.6
合計	1,196	100.0

(2) ((1)で1, 2, 3回答者) 地域活動に参加する理由は何ですか。(複数回答可)

項目	回答数	割合 (%)
住民同士の交流ができる	284	51.9
地域や住民の役に立つことができる	233	42.6
地域の様子を知ることができる	215	39.3
役員である	117	21.4
子どもが参加するから	95	17.4
地域活動に興味・関心がある	85	15.5
災害などの緊急時に備える	74	13.5
誰でも参加しやすい	43	7.9
知人に誘われる	30	5.5
時間に余裕がある	29	5.3
その他	29	5.3
無回答	6	1.1



主体を
当事者（若者）に

得られるもの

目的

担い手育成

地域活動

- ・ 自治の維持
- ・ 環境整備
- ・ 見守り、防犯
- ・ 支え合い、お互い様
- ・ 地域の人々とコミュニケーションを取る機会になる
- ・ 地域のネットワークを構築できる
- ・ 地域社会の一員として認められる

くらし続けることができる
まち

若者・次世代の巻き込み

仲間を増やす

多様な世代の参加に向けて

- ①活動の輪を広げるには、**主体をゆずる**
＝ワガゴト化
- ②活動の輪を広げる方法
楽しみながら、地域の役に立つ
＝**一石二鳥**
- ③地域の現状を知り、
実情を理解した上で活動を行う
＝**戦略的に縮小するのはあり**

北山自治会

ミニコラム お客様をつくらない地域づくり

役員の担い手不足や参加者の固定化等の背景にあるのは、住民の「お客様化」です。お客様をつくらないコツは、一緒に作業すること。イベントを行うとき、役員が企画から後片付けまですべて担うのではなく、参加者にもあえて仕事を残しておくことがポイントです。そして、参加者に「一緒にやってもらえませんか」と声をかけてみる。知らない人同士でも一緒に作業をすることにより、自然に仲間に溶け込んでいくことができます。住民と一緒にその場をつくることを少し意識することで、場の雰囲気が大きく変わり、また活動に対する負担感が達成感へと変化します。ちょっとした工夫から、みんなで一緒にやったという感覚が生まれ、住民が「お客様」から「当事者」に変わっていくきっかけになります。



(令和元年度コミュニティリーダー研修会より 講師：特定非営利活動法人ハンスオン埼玉 理事 西川正氏)



若い世代も楽しく参加 北山自治会

北山自治会では、地域住民の交流の場作りに力を入れて取り組んでいます。

イベント会場
の確保

北山自治会最大のイベントである「サマーフェスティバル in 北山」は、地域内に所在する企業であるペアレン醸造所のご理解をいただき会場の提供を受け開催しており、平成23年から令和元年まで連続9回開催しています。(残念ながら令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送りました。)

スタッフの確保

このイベントは住民の交流の場として親しまれていますが、その運営には、自治会成年部や子ども会など、多くの人が力を合わせて行っています。

例えば、出店の企画や当日の開会・閉会宣言は、自治会内に4つある子ども会が力を合わせて取り組んでいます。また、当日の会場準備では、子ども会のお父さんたちが戦力となり、テントの設営やパーベキューの準備などを行います。食材の下ごしらえは、地区内にある自治公民館を活用して、女性が中心となって行い、会場まで運びます。さらに、部活動で忙しい中学生も当日飛び入りで参加して、お父さんと一緒にテント設営や屋台の補助、受付などを手伝ってくれています。



時代に合わせ柔軟に対応している、活動の一部をご紹介します。

運営上の課題への対応

北山自治会も他の自治会同様、役員の高齢化が課題であったことから、次のとおり持続可能な活動となるよう工夫しました。

- ① 6～7人であった役員を増やすため、子ども会世話役の代表や中学校の校外活動担当などに声をかけ、30人に増やしました。
- ② イベント開催など交流の機会を設けて、若い世代が地域のイベントの企画や運営に携わるきっかけを作りました。

以前は自治会で地域行事を企画し、子ども会などに協力を依頼していましたが、子ども会の世話役の方が役員として正式に企画段階から参加してもらうことで、若い世代の声が自治会活動に反映されやすくなりました。また、自治会が学校行事を把握しやすくなったことから、参加しやすい時期に行事を設定できるようになり、子どもたちの地域活動への参加機会を増やすことにもつながりました。

広報

北山自治会は会報作りにもこだわっており、会報を目にした人が自治会活動に興味を持ち、活動する仲間が増えるよう、引き続き情報発信も行っていきたいと考えています。

目次 (後半)

- 01 自己紹介 ①に記載します
お名前・参加団体名
- 02 地域（団体）の困りごと
②に記載します
- 03 地域（団体）の自慢・工夫して
いること ④に記載します
- ～テーマ/多様な世代の参加に向けてしていること～
- 04 その他